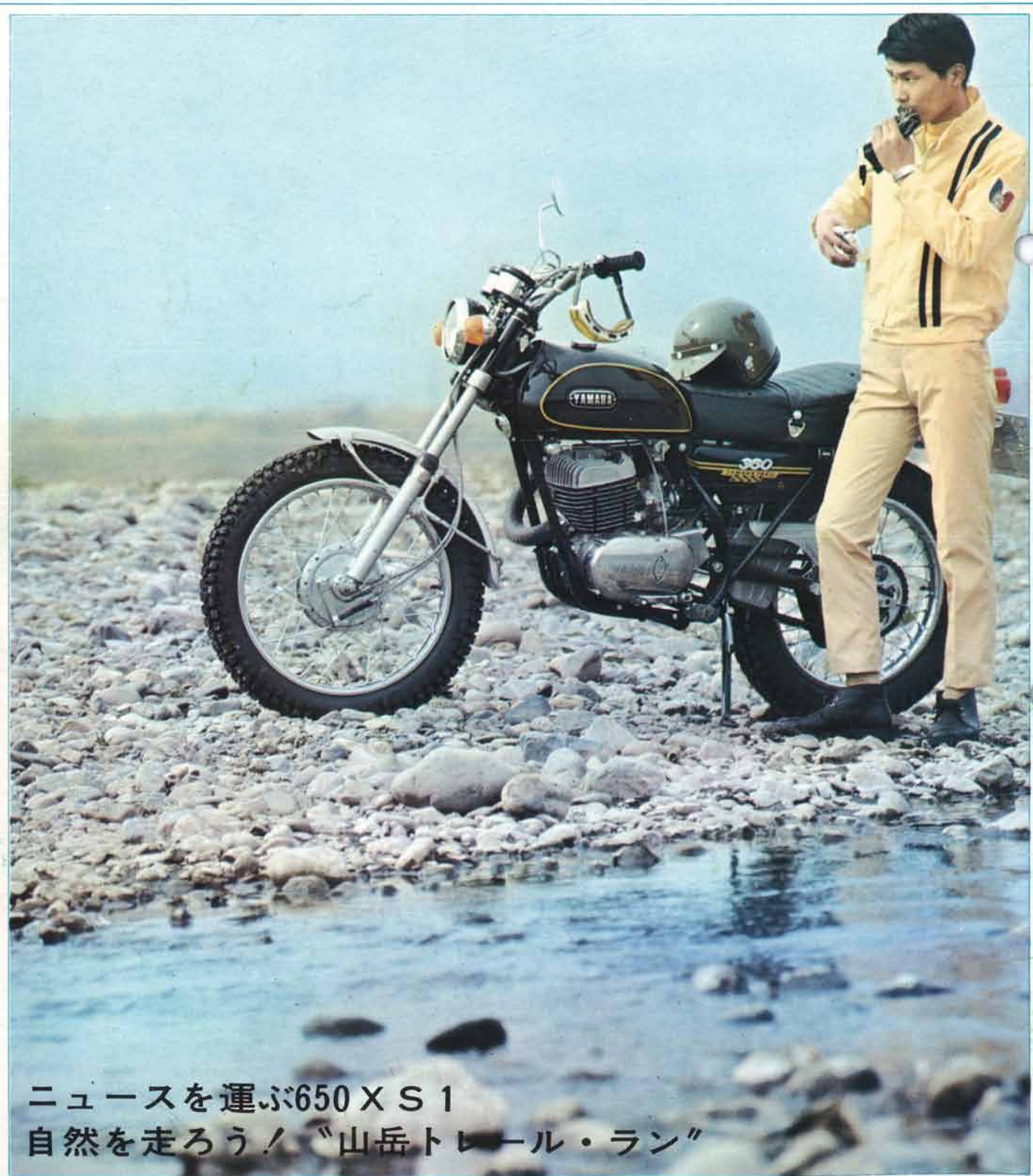


YAMAHA NEWS NO.83

ヤマハニュース '70 **5** MAY



ニュースを運ぶ650XS1
自然を走ろう！ “山岳トレール・ラン”

《新しい二輪車時代を築くヤマハ》

● お店の発展に役立つ経営講習会



正しい経営姿勢と経営に関する知識を持つことは、発展するお店の条件です。ヤマハでは各地で経営講習会を開催して、お店の合理化の手助けをしています。やさしい記帳、法律、税金の実務問題、お店の経営と見方、なおし方など、経営面全般にわたって、お店が繁栄するための方法を勉強することができます。



ジャンプのテクニックを懇切丁寧に指導するインストラクター。

集まれ！トレール教室卒業生。

仙台で、ヤマハ トレール教室大会

「カッコよく安全にモトクロスを楽しもう」というヤングマンを集めてヤマハ発動機仙台支店主催の「ヤマハトレール教室大会」が三月二十二日、新設の仙台テクニカルハイランドで開かれました。トレール教室でオフ・ロード走行のテクニックを学んだ若者たちのために、モトクロス入門のきっかけを開いたこの大会は、非常に好評でした。二人の日本チャンピオンをはじめ、第一級のインストラクターによる指導で、グンと腕を上げた若者たちは「早く、実戦でヤマハトレールを思いっきり走らせたい」と、モトクロス・レースの開催を待ちわびています。



トレーニングの開始に先立って、安全走行の心得を真剣な態度で聞く受講者たち。



日本のモトクロス界を代表する、そうそうたるメンバーがインストラクターとして参加。



走り飛ばじゃないんだ。低く飛んで、早くバランスを立て直そう。



路面からのこまかく連続した衝撃をさけるための後一輪走行。



「柔軟体操を馬鹿にするような人は、まず教室の卒業はおぼつかない」



「これで走れるんだな。カッコいい！」地元東北のエースライダー、齊藤選手がマシンを調整。

ヤマハ トレール教室 大会



「ワット、こっちへつっ込んでくる」と浮足立った途端に、これはみごとな逆バンク走法。

インストラクターによる斜面を横切る模範走行。テクニックのツボがよくわかる。



「シャブは

不整地を安全に走るテクニックを身につけるトレール教室は各地で盛況。トレール教室の受講をきっかけに、野や山に豊かな自然を求めてトレール・ランするヤングマンたちがふえています。

一方、トレール教室で得たライディング・テクニックを土台に、モトクロス競技に出場したいという希望者も激増しています。

こうした人たちの要望にこたえて、トレール教室卒業者が安全にモトクロス入門ができるよう開かれたのが、この「仙台ヤマハトレール教室大会」です。

会場にはM・F・J・公認一九六九年度セニア級全日本チャンピオンの鈴木忠男選手、一九六九年度ジュニア級全日本チャンピオンの鈴木秀明選手や、東北の代表的ライダー、斉藤三千雄選手など、超一流のメンバーがインストラクターとして参加。受講者の手をとるようにして、モトクロスのテクニックをわかりやすく指導しました。

会場になった仙台テクニカルハイランドは、青少年に健全なモータースポーツを楽しむ場所を提供したいという、代表者の佐藤幸雄さんの構想から生れたもので、総面積は約七万平方メートルという広大なもの。モトクロス競技場として、あるいはスポーツ教室や安全運転教室の会場として、有意義に活用されることが期待されています。ユーザー個人でも、一人一日二百円で使用でき、会員になれば年間わずかに二千元という安い会費で、愛車を存分に走らすことができます。

代表者の佐藤さんは「より健全な二輪スポーツの普及、正しい運転技術の指導とともに、交通安全思想の徹底を図る必要がある」ところ





やさしい走り方からスタートして、最後はハイテクニックをこなす。目を見張る向上ぶりだ。



長い急坂を上るトレーニング。めぐまれたコースで、さまざまなテクニックを学ぶ。



総面積69,430平方メートルのうち起伏に富んだ49,590平方メートルが競技場に当てられている。

から、これらを総合した競技場または教習所的なものの設置が急務と考えられ、地元村田町、関係地主等の協力により、仙台テクニカルハイランドの名称で、この三月にオープンしたものです。ヤマハトレール教室も、予想以上の成功であったように思われ、わたしも自信が出たようです。こういった競技場が、全国に数多く建設されることを希望します」と語っています。

さきには、長崎県のヤマハフレンド店有志が共同でトレールコースを開設し、トレール教室やモトクロス競技の普及を図って活動を開始しましたが、こうした動きが今後、各地でますます活発になりそうです。

「いまにボクたちも」モータースポーツ入門
を志す若い予備軍。



D T I で日本チャンピオンを勝ちとった鈴木忠男、
鈴木秀明の高選手は、休憩時間もサインせめ。

仙台で、ヤマハ トレール教室大会

山林を切り開いてつくった仙台テクニ
カルハイランドのモトクロス競技場。



優等生には、このとおり、美しいトロフィーや記念メダルが贈られた。



スタート前は、ラリーのベテランでも緊張する。
今年はやマハで出場する選手がグッとふえた。

参加車30台の中部地区ラリー



お茶の香りの中を、スピードをセーブしながら走る
ほほをなでる風も、春のおどずれを告げている。

毎年、日本最大の規模で開かれる中部地区ラリーが、今年も月刊オートバイ友の会、MFJ静岡県支部の共催で、三月十五日、行なわれました。

三百台にのぼる参加車が、日本一の茶園で有名な牧の原台地を中心に熱戦を展開、減点一の優勝者が八人も出るという、中部地区ラリー初まって以来の好成績でしたが、八人の優勝者のうち六人がヤマハで出場した選手でした。

ラリーのコースは、例年おなじみの静岡市駿府公園をスタートに安倍川橋より国道一号線に出て、岡部町を左折、焼津市を抜けて海岸線を南下、静波より牧ノ原を巡回して小川港から再び焼津市、岡部町にもどり、これより山間部に入り、小瀬戸から静岡市大浜会館にいたる百二十二・七キロの景勝コースです。

参加選手は地元をはじめ、ラリーおなじみの遠征組に、遠く新潟富山、茨城、兵庫などの初参加も加わり、シーズン開幕を飾るにふさわしい盛況をみせました。

今回、とくに目立ったのは、ヤマハトレールで参加する選手が多かったことです。混雑した道路をなるべくさけて、コースを山道に選んだこともあって、ヤマハトレールによる参加者に有利だったようです。

選手の年令も十八才から二十二、三才の若い人達を中心に、四十才から五十才の高令者までと巾広く親子で仲良く出場したのも二組ありました。

だれでも楽しく参加できるラリー競技は、これから伸びるスポーツ・レジャーとして期待されます。

優勝者
6人が
ヤマハで走行



120キロ余りの行程を走りおえて、ヤマハスポーツ650XSⅠがしずしずとゴール・イン!



計算盤をバックミラーに張りつけて。ラリーは頭腦的なプレーを必要とする競技だ。



グループで参加するのも楽しい。それぞれの経験とアイデアを持ち寄って、作戦を練る。

中部地区ラリー優勝者(減点1)

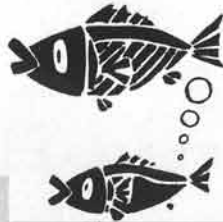
- 加藤 篤彦 (東京) ヤマハトレール250DT I
 - 鈴木 康之 (埼玉) ヤマハトレール250DT I
 - 遠藤 祥孝 (京都) ヤマハトレール250DT I
 - 日野 照男 (静岡) ヤマハトレール250DT I
 - 井上 俊二 (東京) ヤマハスポーツ350R 3
 - 下江 和尚 (静岡) ヤマハスポーツ350R 3
 - 斉藤 省 (東京) カワサキ650W I スペシャル
 - 大平二三男 (東京) ホンダドリームCB750
- (敬称略)



指示速度で走らなければ、とは思いつつも…。まったくよく走る車だよ、こいつは。

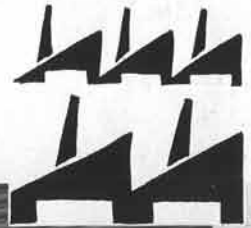
昨年の秋に発売されたヤマハ汎用エンジンMT100が、はやくもいろいろな用途に、めざましく活躍しています。取扱いが容易で、運転音も静か。ネバリ強くて高性能。ヤマハの技術が生んだ信頼度の高いエンジンです。

漁業に………
のりつみ機



のりつみ機に

工業に………
構内運搬機



工場の構内運搬機に



害虫駆除の薬品撒布機に

農業に………



- 噴霧機
- 飼料カッター
- 脱穀機
- 耕うん機
- 農業用運搬機
- 除草機
- ポンプ
- もみすり機
- 果樹園用運搬車
- バインダー
- ティーラー
- 管理作業機
- バキュームカー
- (家畜用ふん尿処理)

活躍するヤマハ汎用エン

その他広い用途に……

しば刈り機
除雪機
ゴーカート



ゴーカートに



しば刈り機に

土木建築業に……

ポンプ
ランマー
コンクリートミキサー
ベルトコンベア
小型ウインチ
発電機
コンプレッサー
バイブレーター
グラインダー



コンプレッサーに



農業や土木建築用のポンプに

「雪の上のモトクロス」という言葉がピッタリのレースだ。この新しいモータースポーツの興隆で、オール・シーズンを楽しめるとあって、多数のモトクロス選手が参加した。



モビルレースにヤマハ優勝

雪上におけるスノーモビルの軽快な運動性にめをつけて、スキー場や温泉地など、人のあつまる積雪地ではレンタルのスノーモビルが登場して好評でしたが、このほどスノーモビルのスピードレースがひらかれ、冬の新しいスポーツとして、にわかに関心をあびました。来シーズンには、スノーモビルのレースが各地でひらかれ、若人の話題を呼ぶことでしょう。

初代のチャンピオンは

大月信和選手(ヤマハ)が獲得

報知新聞社主催「第一回報知スノースクランブル競技会」は、三月十五日からの好天にめぐまれ、石打高原後楽園スキー場(新潟県)において盛大に開催されました。

最初の予定では、ニキロのトラックがつくられるはずでしたが、コース設営の時点で大雪があり、一周七〇〇メートルのトラックに変更、レースは予選ハレースの入賞者を決勝に進出させる方式で、十周七キロの走行でハイ・テクニックが競われました。

参加したスノーモビルはヤマハをはじめムスタング、スキードー、スノースポーツなど外国製も多く、それぞれ雪煙をあげての熱戦の展開となりましたが、決勝進出はヤマハスノーモビルが独占、トレルル教室のインストラクターとして活躍している大月信和選手が初のチャンピオンとなりました。

また、このレースの様子は、東京フジテレビをキー局にナイトショウ番組で全国に放映され、好評をうけました。

なお、二輪のスポーツのいっさいを統轄しているFIM(国際モーターサイクリスト連盟)では、スノーモビルのスポーツ競技も組入れ、普及発展をめざすことになり、日本のMFJ(日本モーターサイクル協会)も協力することになっていますので、来シーズンには各地でスノーモビルレースがひらかれることになるでしょう。



◀ モトクロスできたえた技でスタートダッシュノ



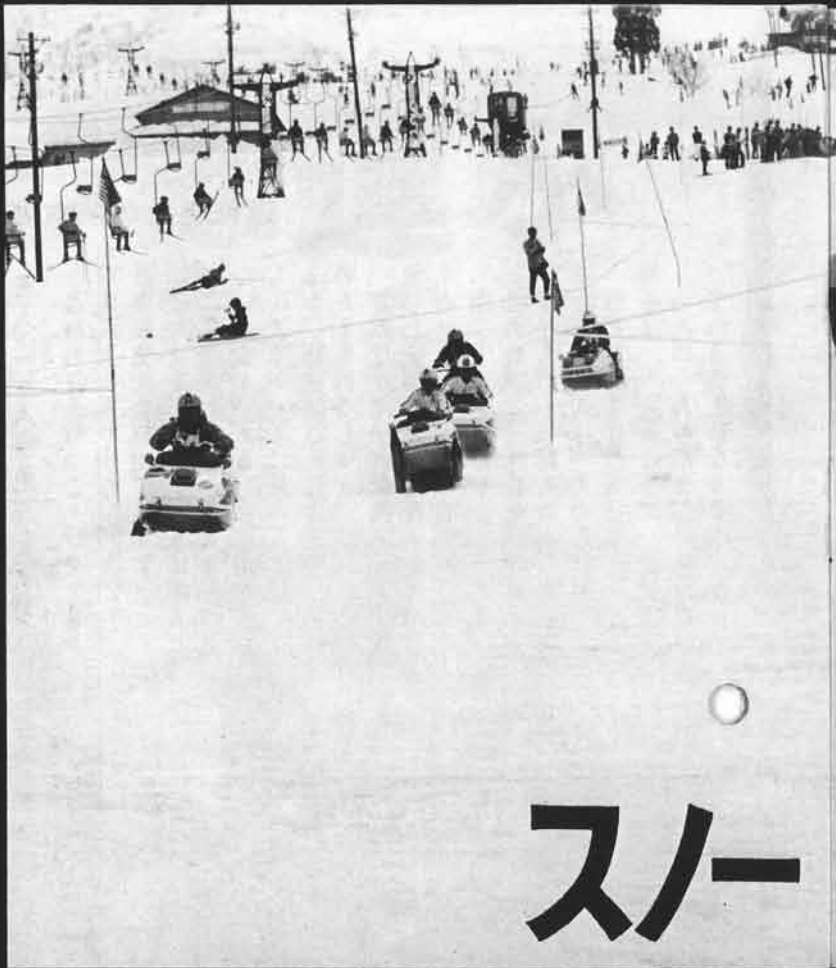
▶ ジャンプはひくく、そして早く。

期待の ウィンタースポーツ



優勝の喜びをかみしめる大月選手。上位入賞者はモトクロス・ライダーが独占した。

▶ スキー場特有のはなやいだ雰囲気につつまれた会場で、スノース克蘭ブルレースの熱戦が展開された。



スノー



◀ エンジンシュラウドをはずすと、まさにレーシングマシン。



◀ オートバイ同様、チューニングアツプの楽しさも味わえる。



◀ スノーモビル独特のフォームでコーナーをまわる。



◀ 重心をグンと内側へおとして、ヘア・ピンカーブを抜ける。

運転免許の所有者

三人に一人は免許を所有
 運転免許を持つことができる十
 六才以上の人のうち、三人に一人
 は運転免許を持っています。
 このうち、オートバイに乗るた
 めに免許をとっている人はどのく
 らいいるか、あるいはどんな人た
 ちがオートバイに乗ろうとしてい
 るか、販売店さんにとっては興味
 のある事柄でしょう。

警察庁が電子計算機を使って集
 積した全国の運転免許所持者は今
 年の一月一日現在で二千四百七十
 八万二千七百七人になっています。
 この数字は、運転免許資格年齢
 (十六才以上)の総人口から比較す
 ると三・一人に一人の所持率です。
 男女別に免許の所持率をみると
 男子は一・八人に一人、女子は九
 人に一人の割合いで免許を持
 っていることとなります。女性の



免許所有者は、まだまだ少ないわ
 けです。
 免許所持者を年齢別にみると、
 二十二才が百一十一万八千人で筆頭
 二十一才が百七万人で二位、つい
 で二十才の九十八万人、二十六才
 の九十九万人、二十八才の八十九万
 人の順になっています。

二輪免許はヤングマンが
 二輪免許の場合はどうでしょう
 か。所持者は全国で二百三十六万
 一千三百五十一人です。このうち
 男子の二百七十七万人に対して、女
 子はわずか十八万六千九百人。ス
 ポーツ性の強い自動二輪車(五〇
 ccをこえるもの)は、現在のところ
 では、まだ男性の乗り物のよう
 です。

男子の場合、年齢別に二輪免許
 所持者を見ると、十七才の人が二
 十三万一千五百十三人と、圧倒的
 に多いのが注目されます。ついで



十八才の十四万一千八百六十四人
 十六才の十二万一千四百九十二人
 の順で、十九才になると八万六千
 三百三十五人と減っています。
 このことは、免許を持てる十六
 才になるのを待ちかねるようにし
 て、免許試験を受ける人が多いこ

とをうらづけています。やはりス
 ポーツ車、トレール車は若者に人
 気があります。

女性が急増した原付免許
 一方、原付免許だけを持っている
 人は二百五十四万四千四百九十
 七人です。男子の百七十一万人に
 対し、女子も八十三万二千人と、
 かなりの数にのぼっています。
 年齢別にみると、男子はやはり
 十六才から十八才までが圧倒的に
 多く、それ以上の年齢になると、
 二輪免許か普通免許を取ってしま
 うためか、原付免許だけの所有者
 はグンと減っています。
 ところが、女子の場合は、十七
 才から四十三才ぐらまでは、各
 年齢とも二十万人台から三十万人
 台と、所持者が平均しています。
 ヤマハ運転免許教室でもみられ
 るように、原付免許を所有したい
 という女性がふえています。

新聞原稿輸送に活躍する
650XS1

ニュースを運ぶ

マスコミ時代の花形。新聞、テレビにはニュース原稿の輸送は欠かすことのできない重要な仕事の一つである。これには速さと確実さが最も必要とされ、性能の良いオートバイが活躍する絶好の場である。ヤマハ

もこれに応じて各地でその激務に耐えてきた。こんど毎日新聞社の原稿輸送に新たにヤマハスポーツ650XS1が登場。連日、都心の車の行列をもものともせず、抜群の走行性を発揮して大切な使命をはたしている。



さあ急ごう！締切りがせまってきた。デスクが首を長くして待っていることだろう。社旗がゆれる。車も快調だ。思わず身が引しまる瞬間。

毎日新聞社の原稿課には十名の輸送マンが従事しているが、そのほとんどが二十才前後の若者でしめられ、各人好みのオートバイを駆って車の洪水をかくぐり、他社との日々のニュース合戦にシノギをけずっている。

ここに登場ねがった宮口房則さん(18)は、わがヤマハスポーツXSIを原稿輸送の愛車とされたトップバッターである。宮口さんは奄美大島出身、以前から島中をYMC三〇五で走りまわっていたヤマハ党で、大好きなオートバイを生かせる職業はないものと上京した。新聞広告で原稿輸送の仕事を知り日本ニュースサービス社に入社、毎日新聞に配属され半年余りになる。待望のXSIは二月末に入手した。はじめて世田ヶ谷のハラモーターズで現物を見たときにそのデザイン、色、音にまざまいってしまったという。実際仕事に使ってみて出足のよさ、乗り心地のよさは抜群で、ことに風雨や雪など悪コンディションにも優れた走行ぶりには、たいへん満足しているとのことである。

日常の勤務時間は変則的だが、一日十時間のうち六、七回の出勤で一五〇km走ることもざらだという。通常は国会その他の官庁まわり、作家宅や駅での原稿受取りが多いが、火事や殺人などの事件になるとますますその活躍がめざましいものになる。一刻一刻変わる現場の状況を本社に運んでとんぼ返りをくりかえす。そんな時がいちばん仕事に充実感をおぼえる時だという。



大好きなオートバイで社会に役立つ仕事ができるということはたいへん幸せなことだと思います。毎日新聞社前で。

快走するXST。今日は車が少なくついついスピードが出が
ちだ。こんどの休みにはレース場で思いきり走ってみたい。



すっかりおなじみになった国会議事堂。
今まで遠い世界の出来事だった政治が身
近に感じられるようになったようだ。



同僚たちと。みんなオートバイ好きの若者ばかりだ。
この中にもボクと同じように将来レーサーをめざす
仲間がいる。



今日から大学リーグ戦が始まった。第一報を記者
より受取る。この原稿が明日の紙面を飾るのだ。



〔図解〕 山岳トレールラン



登山と
モトクロス
の
技術を
ミックスしたような
山岳トレールラン

立木を
利用して
引っぱり
上げる

車の方にも
注意を
払いながら
引く

くんだり
は
モトクロス
の
高度な
テクニックが
必要

坂の途中で
発進するとき
フカすと
前輪が上るので
体重をグッと
前につす

後輪ギヤはできるだけ大きく
転倒する
場合を考慮
ヘッドランプを
はずす
チェンジペダルは
必ず上向きに
他の車種でもエンジンガードが必要

ロープの先きを
なめるべく
木か岩に
結びつける

ロープは
前輪フォークの
下部に結ぶ
ロープで
引っぱり
上げるには

ヘルメットは
下りのときは
とくに必要

皮手袋
または軍手

ジャンパー
またはスボーツシャツ

皮または
丈夫な布地のもの

モトクロスシューズ

ナップザックに
入れていくもの

- 火火プラグ
- レバー類
- チェンジペダル
- パンク道具
- ガムテープ
- 場所によっては
地図、懐中電灯
- ロープ
- 行先によっては
燃料予備タンク

オーバー
ハングは
まわって
通す

オートバイで山登り

自然を走ろうトレイル・ラン



ヤマハが創りだした
オートバイの新しいスポーツレジャー
トレイル・ランが人気をあつめています
新しい需要を呼びおこす
トレイル・ランをお店でもどうぞ



トレイル・ラン第5回目は、トレイル教室一級インストラクター・松島嘉保さん（福岡県久留米市国分町八六五ノ一）が編みだした山岳トレイル。道なき道をきりひらくトレイル・ランに山登りをプラスしたなんともハードな走法ですが、そこにはベテランのみが知るでっかい楽しみがあるようです。男が好むトレイル・ランのバリエーションとしてご紹介しましょう。（ヤマハスポーツ店・深谷モーターズ・深谷憲男さん撮影）



▲「あー、しんど」藪の中に入ってついに下車。押上げにかかる。

トレールで直行の山登り

「山岳トレール」、どうです、耳にひびきがいいでしょうが」

忙がしい仕事の合間をみて取材にに応じてくれた松島嘉保さんの目がきらりと光った。乗車歴十余年。根っからのヤマハ・ファンである松島嘉保さんは、同好の士と共に久留米地区に初の本モトクロスを持ちこんだ人としてもよく知られている。いや、いまの若い人の間ではトレール教室のインストラクターとしての松島嘉保さんのほうが、はるかにとおりがよいかも知れない。九州をまたにかけて、各地のトレール教室に顔をだしているおなじみのインストラクターだからである。

その松島嘉保さんが、かれこれ四五年前から秘かに実施しているのがオートバイによる山登り、山岳トレール・ランである。

「オートバイで山登りする、ちよっと突びな感じがするかもしれませんが、実際はなかなか楽しいものです。」

そもその始まりは、わたしが登山をしてきたことと、モトクロスに凝っていたことによるものですが、実際に試してみると、これが非常におもしろい。それで、仲間を誘っては手近な山をアタックしてきたわけです」



▲「オーイ、こっちだ」先導にしたがって徐々に車を登らせていく。

行きはヨイヨイ、帰りは……

山岳トレールの発想は、登山のときに生れただけに、その走行は苛酷きわまりない。まともに登坂できるところは少なく、殆んど押上げにおわることもある。したがって普通の登山よりはるかに疲れるし、また時間もかかる。とにかくきつい走行？なのだ。

「ふつうの人はなんでそんなことをするのか、とげげな気持ちでしょうが、スポーツに大儀名分はありません。登山だって、山がそこにあるからだ……という有名な言葉があるじゃないですか」

松島嘉保さんが最初にアタックしたのは市内から十分ほどで行ける耳納山。標高四〇〇メートルほどだが、頂上まで直行の道がなかった。ここをH3の改造車で何度となく登ったという。まだヤマハトレールが生れてなかった頃のことだ。それから、DT1の誕生で行動半径はグンと広がり、標高一四〇メートルの万年山も行動半径の中に入れた。

「なじみのある山なら、一人でもよいけれど、やはり二三人でチームを組んだほうが楽しいですね。行きはヨイヨイでよいとしても、帰りがまた登り以上にならないへんです。ハイ・テクニクを駆使してなんとかかおりてきますが、どうしてもダメなところは下りでもロープを使います。少しぐらいの岩の出っぱりなら、前輪をうかしてジャンプしておりちやいます。こんなところがモトクロスの技術の要るところであり、トレーニングとしても役立つところなんです。」

とにかく、じわじわと登りつめて、頂上に立ったときにはスカッとしますわ。登山とまったく同じです」

車の整備と服装、携行品など

松島嘉保さんは、どんなときも、登った道を帰ることにしている。だから、あるときなど、登りで一服休みしていた場所にお金を落してきたのを知らずに、それを見つけてひとり笑ったこともあるとか。そしてこのハードな山岳トレールの注意事項として次のような※



▲頂上をきわめたときの気持ちはいうにいわれぬものがある。



▲頂上附近の急勾配ではロープを使っての登坂となった。ロープをひく者、ロープをひっぱる者、そして車を押す者。この三者の意気が合わないと、なかなかうまく登れない。

※ことを語ってくれた。

「マシン、これはスタンダード（トレール仕様）のままOK。改造するならリヤ・スプロケットを特大製に。大きさは九〇が手頃。腕ならしにはF51Cでもいい。エンジンガードをつけて。押上げを考えれば軽いことが



保さーん
嘉摩モーター
島深谷憲
松谷深谷
語り人
楽しく
（左）の
主

第一ですからね。パワーは、リヤ・スプロケットを大型化すれば五〇でも充分です。おそれのあるものは取外し、チェンジペタルは正規の位置より上向きにつけておいたほうが安全です。スベアパーツとして用意するのは、ブレーキ、クラッチのレバーとチェンジペタル。点火プラグも必要です。そのほかのものとしてはパンク修理具、工具、カムテープ、そしてロープ。燃料タンクを破損するようなことがあるといけないから、4ヶ所の予備ガソリンもあれば

よい。場所によっては地図や懐中電灯が必要になることもあるでしょう。

身体のほうの装備としては、まずヘルメット。押上げしているときは重くていらなくらいだけれど、やはり必需品です。そして手袋。上衣は長袖が条件。とにかく登りでは汗をかくので布製の地の丈夫なものがいい。これに対してズボンには皮とまでいかなくとも地のしつかりしたものが欲しいですね。また靴はモトクロスシューズがあれば上等です。

無暴は避けて周到な用意を

ライディングのテクニクとしては、登坂では重心をできるだけぎり前にとり、下りでは後輪ブレーキを主にする。急登坂の発進の場合なんか、回転をあげてパワーを稼いでからクラッチをつながなきゃスタートしませんが、よほど意識的に体重を前にかけておかないと、車が棒立ちとなって、トンボ返りを起してしまうんです。またやむなく転倒するときは上体を山側に倒すこと。さもないと車の下敷きになってしまいます。

また、ロープでひっぱりあげなければならぬようなときは、なるべく車の下側にロープを結んでひっぱったほうが、車は動きやすいものです。たとえばハンドル、クラウンより、前フォークの下端に結んだ方が、ずつとひっぱりやすいんです。

それとロープでひっぱりあがる場合、立木とか岩の出っぱりなど、ロープをかけられるものがあれば、必ずロープをそれにひっかけて、万一のときの備えとし、またそれを軸にロープをひきあげる人がおられてきて、車の押しあげを手伝いながらロープをひいて互いに上っていくという方法をとったりして、力を有効に生かすことです。

それと大事なことは早出、早帰り。無理なスケジュールを組まず、また無暴なアタックは厳につつしむことです。限界がきたら直ちに引返す。周到な用意に加えてこの心構えが出来ていれば、山岳トレール・ランもまた楽しい、です。

そして、これからはハードなトレール・ランがはやるでしょうという松島さんでした。

ディトナ圧す常勝ヤマハ

250cc級100マイルレース



ヤマハ攻勢のリーダーとして、堅実なペースでゴールへばく進するキャラクターズ (75番)



70年ディトナのヒーロー
K・キヤザワ選手



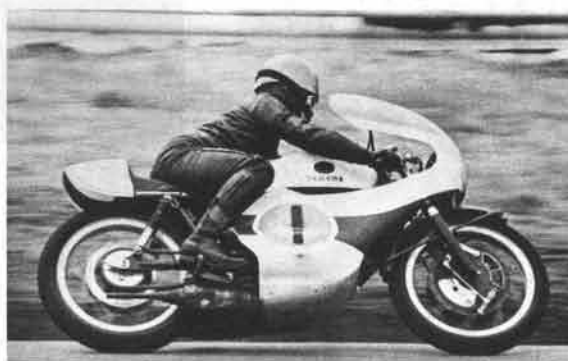
ノービス級のウイナーになったJ・クリストファ選手
(写真はいずれもDar tona Beach Sunday News 紙より)

三月十四日に行われた、アメリカディトナの二五〇cc級一〇〇マイルレースは、予想通り一位から七位までを独占したヤマハの圧倒的な勝利に終わりましたが、これでヤマハは六年連続このビック・イベント制覇の大記録を樹立したのです。

無敵ヤマハのリーダーは昨年イタリアのベネッリワークスマシンで、二五〇cc級世界選手権を獲得したK・キヤザワ選手(オーストラリア)で、ディトナ初登場のハンデにもかかわらず、ヤマハ二五〇ccTD-2の性能を十二分にひき出して、九八・八五七マイル/時のレーススピード新記録を出して優勝しました。

同日行われたノービス級七十六マイルレースでも、ヤマハの圧倒的優位は動かず、一位二十位の中十三、十四位をそれぞれドウカティ、スズキのライダーにゆずっただけで、他をすべて独占するという驚異の成績をあげました。ウイナーはJ・クリストファ。

更に十五日の二〇〇マイルレースでは、三五〇ccTR-2をもつて出場のY・デュアメル選手が、二倍以上の排気量をもつライバル・マシンと五角以上のレースを展開し、全ラップ完走の四位に入賞しました。



ヤマハ、富士でも勝つ

70シーズン初の国内ロード

ロードレース日本選手権をかけた第14回全日本モーターサイクルクラブマンレースは三月二十九日、MCF AJ主催のもとに十三レース、一八四台のマシンをあつめて富士スピードウェイで行なわれました。

この日は天候にも恵まれ、また'70シーズン皮切りのロードレースとあって、各クラスとも熱のこもった好レースを展開し、あつまったファンを大いに湧かせました。ヤマハ車の成績は、ジュニア、ノービスの二五〇cc、一二五ccクラスの優勝を独占したほか、ジュニア五〇ccクラスでも優勝、おなじみのスポーツライダーが、ジュニアクラスの優勝を挙げました。
(写真右はジュニア二五〇cc級で優勝のヤマハに乗る中沢政春選手(スポーツライダー))
(写真左は同じく一二五cc級に優勝のヤマハに乗る和田勤選手(スポーツライダー))

南アT Tレースで三重勝



ヤマハ250TD2、350TR2の市販レーサーで南アT Tレースに三重勝を記録したP・リードは、このあとヨハネスブルク近郊のキャラミサーキットでもMV3気筒工場レーサーに乗るG・アゴスチーニを破って優勝した。

マイク・ザ・ハイトもH巻へ

「たいしたもんだな、リード」と、南アフリカT Tレースで三重勝をとげたヤマハのフィル・リード（右）を祝福するのはかの著名なマイク・ヘイルウッド（左）です。南アT Tレースは'70シーズン初の国際レースとして行なわれたもので、このレースのミーティングにはヤマハのP・リードをはじめMVのG・アゴスチーニなど、世界の超一流選手が参加し、ダーバン近郊のロイヘスセスサーキット（二周一・八マイル）には三万人におよぶ観衆が詰めかけて各クラスの熱戦を見守りました。

なかでも圧巻はヤマハに乗ったP・リードの活躍で、二五〇cc級三五〇cc級に新記録を樹立して優勝、また三十五ラップの重排気量級においてはMV三気筒のワークスマシンに乗るG・アゴスチーニに勝負を挑み、市販レーサーのTR2でみごと栄冠をかちとり、ここに三重勝の大記録をうち立てたことでした。なおこのレースには、M・ヘイルウッドやJ・レッドマンも観衆のひとりとしてレースのなりゆきを見守っていました。P・リードの活躍ぶりに目をみはっていました。

トレール・スポーツの積極化



市販車そのままに参加するもの、YGTでモトクロス用に改造したトレールで参加するもの。若さがいっぱいになった。

日本チャンピオンが模範走行

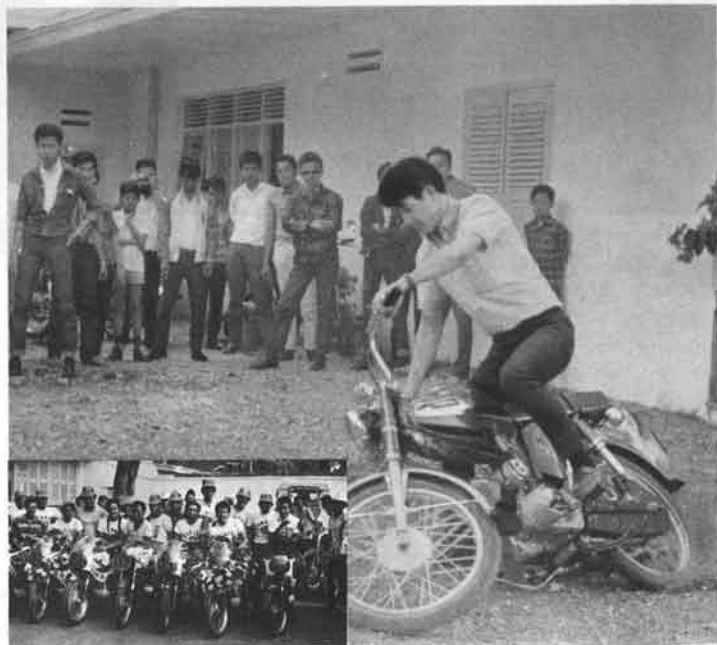
浜松でトレール教室大会

この日は、MFJセニア級日本チャンピオンの鈴木忠男、ジュニア級日本チャンピオンの鈴木秀明の両選手と、豪快な走法で人気のある加藤清丸選手が、午前、午後の二回にわたって模範走行を披露しました。日ごろ、ヤマハトレールで活躍するこれら一流ライダーのあざやかなテクニックは、参加者の目を見張らせると同時に、大いに得るところがあったようです。ロードレースで鳴らした長谷川弘選手も、当日は実行委員の一人として、大会運営に協力しました。

ヤマハ浜松主催「浜松トレール教室大会」が四月十二日、天竜川ぞいの中瀬モトクロス会場で開催されました。モトクロス競技の楽しさを多くの人びとに知ってもらおうという意図で開催されたこの大会には、トレール教室の卒業生を多数まじえて百四十台が出走。変化に富んだコースで、テクニックを競い合いました。



サインせめにあう日本チャンピオンたち。これはこれは、トレールリックの背中にも。



インドネシアで評判の

ヤマハレーシングチーム

「ヤマハアジア発」おそろいのヤマハシャツを着飾って、カメラにおさまっているメイトたちはインドネシアのヤマハレーシングチームの面々。昨年のスマランレースでの大勝利をおさめて以来、インドネシア全土にわたってヤマハの名はとどろき、今シーズンの活躍ぶりが早くも話題となつて

います。左の写真は、インドネシアのピカライダー Benny Huan ベニー・ホワン選手がアクセルターンの妙技をファンにみせているところです。ホワン選手はジャカルタにヤマハのパーツ販売店をひらいて好評をうけています。



オートバイが当って大喜びの若者



HT1の試乗会にも若者が殺倒

〔仙台支店発〕宮城ヤマハ自動車ならびに野村モーターズの共催による「70年ヤマハ大展示会とディスクコンサート」が四月五日、宮城県石巻市の市民会館で花ばなしく開かれました。

ホールではステレオ界に革命を起したヤマハNSによる音楽の演奏や、ヤマハオートバイの当る抽選会がくりひろげられ、屋外会場では、ヤマハスポーツ、トレール、スノーモビル、ヤマハ汎用エンジンを搭載したゴーカートなど各種製品が話題を集めました。

また、若人に人気のあるヤマハトレール90 HT1の試乗会、モトクロス出場のための技術相談なども行なわれ、大盛況でした。

'70ヤマハ大展示会と ディスクコンサート

〔名古屋支店発〕基礎から高等テクニックまでオートバイの正しい運転技術を学ぶと同時に、オートバイによる新しいレジャーをつくりだすヤマハのトレール教室は、今年も全国的に大きな盛りあがりを見せて各地で盛大に行なわれていますが、三重県のヤマハ特約店・第一自動車さんでは、お得意先のフレンド店さんの協力により、毎月第二日曜日を定例トレール教室とし若いお客さまからの好評を得ています。

また、ことしは大々的なトレール・スポーツの普及をめざし、ヤマハトレール教室モトクロス大会の積極的な開催をめざし、大台大会、宮川大会、木曾川大会と好調な出足で、ヤマハファンを大きく増やしています。

（小椿・記）

盛況の定例トレール教室



モトクロスの初歩テクニックも勉強



青い目のユーザーをまじえて開催 岩国スポーツ祭でヤマハの人気あがる



〔大阪支店発〕さる三月一日、山口県の岩国米軍基地を会場に「岩国スポーツ祭」がひらかれました。参加人員は青い目の女性を含む三十五名で、このうち米軍の兵隊は十名。日本語、英語がとびかうなかで、荒井市次、佐藤正の両インストラクターがトレールのハイ・テクニクを披露、またトレール教室初歩コースとしてスラローム、コーナークワイクなどの実技を指導し好評を得ました。

またアトラクションとして運乗り競争やモトクロスも行なわれ、人気をあつめました。このスポーツ祭のあと、基地内におけるヤマハの注目度は高く、ATIやHTIを中心にかなりの数の購入が所轄のヤマハフレンド店さんにまいこんでいるとのことでした。

(内山・記)



仙台レジャー・スポーツ・フェア開く



東部輪業通信社主催の「70 第一回レジャー・スポーツ・フェア」が四月二日から五日までの三日間にわたって、仙台市の宮城県スポーツセンターで開かれました。

ヤマハ発動機仙台支店でも、県下のヤマハ特約店の協力を得て、スポーツ・トレール車、ボート、スノーモビルを多数出品。

スポーツ・レジャーのシーズン開幕とあつて、たいへんな人気を集めました。

早くもセールボートに人気 大好評の三越ボートショー

水のレジャーの主役をつとめるヤマハボートを一堂にあつめた三越ボートショーが、三月三十一日から十五日間の会期で、東京・日本橋の三越本店主催で

大型商品のボートを大いにPRし、大いに売りこもうとするもので、正面玄関口に面した一階ホールはヤマハボート群でうめられ、一足先に夏がきた感じ。新



ことしも一番人気のヤマハ

第9回東京ボートショー

恒例の東京ボートショーは第九回を迎え、東京・晴海の国際貿易センターを会場に、三月二十七日から四日間の会期で行なわれました。

水のレジャー人口は年を追って増加してきており、また大型化してきていることからファンの出足も好調そのもの。会場の一角に陣をはったヤマハ・コーナ―では新発売のセーリングボート(ヨット)をはじめ、STR-25の新艇の発表もあり、商談室はつねに満席。まさに人気ものヤマハで、ショーの話題を独占したかたちで大きな成果をあげました。



水の上のレジャーも大型化

推進役のヤマハに人気あつまり

ひらかれました。水のシーズンを目前にひかえたこのタイムリーな企画は、今夏もっとも期待されている

発売のセーリングボート(ヨット)も一躍人気をあつめ、お客さまの応待に忙しいショーとなりました。



〔東京支店発〕大型化する陸の上のスポーツレジャーに呼応するがごとく、水の上のスポーツレジャーも、巾広く、また大型化してきており、四月三日から五日にかけて三浦半島佐島マリンで行なわれた'70大型艇試乗の会も、熱心なボーマンが多数つめかけ、大成功をおさめました。

この試乗の会に提供された大型艇は、さきに行なわれた東京ボートショーで大好評をうけた25フィートのヤマハSTR25をはじめSTR20、そしてこのほどヤマハで取扱うことになった38フィートのパトラム38など、話題の大型艇で、日本のボート界も欧米なみに大型ボートによる本格的クルージングの時代を迎えたことを示していました。



一番人気の ヤマハボート

★これは広告ではありません。人間回復がもつともつよく叫ばれている七十年の、みんながつよくあこがれている新しいレジャーを紹介した週刊誌のトップ・ページです。

【週刊現代】人間回復のための新レジャー情報 ■一番人

気のモーターボート ヤマハTR112DX
今年のファミリーレジャーにブームを呼ぶモーターボートの中で一番人気の機種がこれ。十八万五千円。連絡先ヤマハ発動機 ☎〇五三五八一七一一一

好評！ ヤマハ 「トレール・ルック」

★行動派の若者たちはオートバイ好き。そこでシーズンを迎えて若者たち向けのスマートなトレール・ルックが考案され、カルフル・ヤマハの人気を一段と高めました。

【モーターサイクリスト】ヤマハ・トレールシリーズは個性的なスタイルとばつぐんの性能で好評だが、今年はさらに各車の個性美を強調するため、カラーに重点をおいた「カラフル・ヤマハ」を強く打ち出すということだ。

これにもなつて、服装もカラフル・ヤマハにマッチしたものを……ということから、「トレール・ルック」を企画し、三月一日から四月末日までの「トレール・ルックセール」期間にヤマハファンを中心に大いに普及させていこうというものである。

この「トレール・ルック」にはハットとウェアがあり、イエローを基調に、黒のストラップをいれた防水加工の軽くて着やすいものである。

昨年のモーターショーにホンダが二輪専用のファッションを展示して人気を呼んだが、

二輪車メーカーが独自にモーターサイクルに向けた服装類を製作にうつすのは、今度のヤマハがはじめてである。(五月号)

雪上車を買って給食運び 北海道辺地の校長先生

★冬は雪のために道路をとぎされる北海道で「子どもたちの体力づくりのために、なんとか年間完全給食を実現させたい」と、自費でヤマハスノーモビルを購入した小学校の校長先生がいます。私欲を減して辺地教育に情熱をかたむけ、あるいは生活記録「はまなす学級」の著者として、教育界に異彩を放つ沼田町真布小の荻忠男先生です。

【北海道新聞】(沼田)官沢賢治をわが心の師とし辺地教育に情熱を燃やしながら自費で小型雪上車を購入、暴風雪で交通が途絶えるときでも十五人の児童たちのために北空地学校給食センターの給食を運んでいる小学校校長がいる。

沼田町市街から九キロ山奥の町立真布小学校長、荻忠男(五五)で、福島県双葉郡富岡町の出身、昭和十四年三月、札幌師範学校本科第二部を卒業後、日高管内浦河町浦河小学校をふり出しに同第一中学校、福島県富岡町富岡中学校、江別市第三小学校などに勤務。三十五年三月、官沢賢治の生涯にならつて、「デクノボウ精神」に生きることを決意し、昨年四月、石狩管内新篠津村小学校からへき地二級の複々式二学級の真布小学校へ転動した。

これまでずっと児童の学力、体位向上に努めているが、特に体育の時間には児童たちの強い腰と足を鍛えようと郷里の福島県にいる同校長の兄さんから同県特産の丈夫な竹を取り寄せて竹馬乗りをさせているほど。

同校へ通ずる町道は冬季間二日余の積雪で給食センターからの配送はともすればストップがち。このため同校長は年間完全給食実施を実現させるためには道路の除雪を申請した

結果、町道真布線のうち七百坪の車両運行は可能になったが、同校まで約二日は豪雪のため完全除雪は困難で、給食配送車の運行は無理だった。

そこで同校長は雪上車の配置を町教委へ依頼したが、財政窮迫な予算ではむずかしいとわかつたので、自費三十四万円で定員二人の小型雪上車を購入、この後ろにソリをつけ、温食入りの給食カンとパン、牛乳を載せ、エンジンの音を真布の谷間に響かせ、雪煙をあげながら児童たちの待つ真布小学校へ走らせている。荻校長は「子供たちは生きていて人間なんです。市街の子供たちと同じく勉強したいし給食も食べたいのです。私は真布の人たちとともに生きるべく決意し、ここに腰をおろしているのですから」というだけ。

昼食時近くになると十五人の児童たちは教室で耳をすませて雪上車のエンジンの音を聞いている。「おーい、弁当がきたぞ」と同校長がいうと児童たちは「やあ、まだ暖かいや」といながら給食カンを教室へ持ち運ぶ。やがて湯気の立つている給食が配られ子供たちが一斉にパンにバクつくと、荻校長はニコニコしながらみんなの顔を見渡し「どうだうまいか」という。子供たちの「うん」という声がかすかえつてきた。





万国博で 世界の交通警官が競う

★三月十五日から一般公開された日本万国博覧会は、終日たいへんなにぎわいを見せ、さまざまな話題をふりまいていますが、ここにオートバイにまつわるニュースをひろってみますと……

〔二輪車新聞〕万博の入場者のなかには二輪車ファンも少なくないが、彼らにとつて最大の関心は「世界の交通警官（おまわりさん）」がくりひろげる各種のショーである。

まず、十五日午前九時三十分の開幕と同時に、場内メインストリートでオープンングパレード。これには世界五十一カ国・五十三チームの交通警官、各国の白バイ（ポリス・モーターサイクル）が参加し、その前夜には歌手の佐良直美やピンキーとキラーズを乗せたオープンカー、パトントワラー、プラスバンドなども加わって総勢二千人にも達するパレードとなった。

「白バイといっても本当のシロの車は少ないね」とある入場者がもらすように、赤あり、黒ありと、国によって車の色はいろいろ。

また、運転する警官のユニホームもさまざままで「日本の警官が最もいかめしく親しみがたい」ともらす声が多かった。

シンボル・ゾーンのお祭り広場では十六、十七、十八、二十一の四日間、毎日午後一時と三時の二回、世界二十九カ国の交通警官と白バイが参加しての技能エキシビジョンがひらかれた。これはパトントワラーやプラスバンド、マスゲームチームなども含めたグラインドショーとして構成、そのなかで各国の交通警官がオートバイ（白バイ）による高度な運転技術を披露するもので安全運転対策のキャンペーンでもある。

また同じお祭り広場で十、五日―二十二日までの毎夜六

時から「世界の交通警官がやってらん」のハイライトともいべき西ドイツ・ベルリン警察アクロバットチームによる白バイのアクロバットショーがひらかれ大変な人気。このショーは警官二十二名、白バイ（本当は黒色）十五台でピラミッド、ジャンプ、各種編隊行進、肩ぐるまパレード、サイドカーの曲芸、火の輪くぐり、十字および平行交差などのスリルと迫力に満ちた演技を披露し日本では初公開とあつてなかなかの人気であつた。

（三月二十六日）

道路交通も 情報化時代

★世をあげて情報化時代といわれていますがこのほど電話一本で全国のハイウェイから主要地方道の渋滞ぶり、そしてルート案内まですべて答えてくれ、しかも二十四時間サービスで無料という「日本道路情報センター」が発足、ドライバを喜ばせています。

〔朝日新聞〕発足した「日本道路交通情報センター」は、全国的な情報、例えば東京から東名高速で名古屋に向いたい、いま途中はスムーズに走れるか、青森に行きたい、雪で通れないところはなにか、新潟へスキーに行きたいが最短ルートはどこかなど、首都圏からの道路交通の案内を東京・九段の千代田会館内九段センター（03）二六四―一三三―で答えてくれる。都内を走る高速道路や一般道路の情報は、霞が関センター（東京・霞が関の警視庁交通情報センター内）（03）五八―一七六一―で。また「万国博へ行きたいが大阪周辺の道は――」といった問合わせには大阪センター（大阪市東区の大府府警交通情報センター内）（06）九四三―一五六―で関西中心の情報がかかる。

センターは財団法人組織。警察関係の「交通情報」と、建設省や各地方建設局、日本道路公団、首都高速道路公団などからの「道路

情報」を総合的に集め、これまでそれぞれがバラバラでやっていた情報提供を一元化した「諸外国にも例のない自慢できるシステム」（建設省道路交通管理室）だそうだ。（三月二十日）

整備用機械工具の 標準価格決まる

★整備作業場を充実させようと計画し、さて機械工具を購入しようとしたが、業者によって値段がまちまち。そのため、予算が立てにくいという経験を持たれたかたは少ないでしょうか。日本自動車機械工具協会では、こうした悩みをなくすとともに、整備用機械工具を不当に高く売りつけたりする業者を締め出そうと、整備用機械工具の標準価格を決めました。

〔自動車の実務〕日本自動車機械工具協会は、このほど自動車整備用機械工具類についての標準価格を決め、整備業界へ明示した。自動車の急激な普及増にもない、その保安整備をあくまで整備事業者も増加する一方であるが、いざ工場に整備機械工具を購入し設置しようと思つても、価格が明示されていないため予算のたてようがないというのが実情。価格明示がないため、その場主義の商取引が行なわれていたといわれる。

この結果、協会外の業者の中には、不当に乱売したり、高く売りつけたり、あげくの果てはアフター・サービスも行なわないといった悪質業者も横行した。協会内部からもこのような悪質業者の締め出しには、標準価格を設定して社会信用度を高めることが良策であるとの案も出されており、いよいよ今回の表示となったもの。

標準価格とはいえ、必ずこの価格で売らねばならぬということはないが、一つの商慣習を確立する意味で整備業者から歓迎されるものとみられる。（四月号）

■ヤマハサービスコーナー■

セールスの方、サービスの方、そして事務の方、お店のみなさんでご覧ください。お客さまを迎えたときの“話のタネ”に絶好です。

■整備士になるには

オートバイや4輪車の性能は日まじに向上し、これにともなって整備技術の向上が望まれています。ヤマハでも各地で技術講習会が催され、販売店のみなさまの整備技術の向上に役立っています。

すぐれた整備技術を持っていることを国家が認める制度が「自動車整備士技能検定制度」です。つまり、技能検定という名の国家試験に合格すれば、整備士の資格が得られるわけです。

すでに整備士の資格をお持ちのかたもあるでしょうが、販売店さんが認証工場の資格をとり、やがては認定工場、指定工場へと大きくなっていくに従って、整備士の重要性もまわっていきます。

整備にたずさわる従業員さんの中には、整備士への夢に胸をふくらませて、努力している方も多くいます。

ここでは、整備士資格の取得の方法をご紹介します。

■自動車整備士の種類

自動車整備士にはいろいろな種類があります。

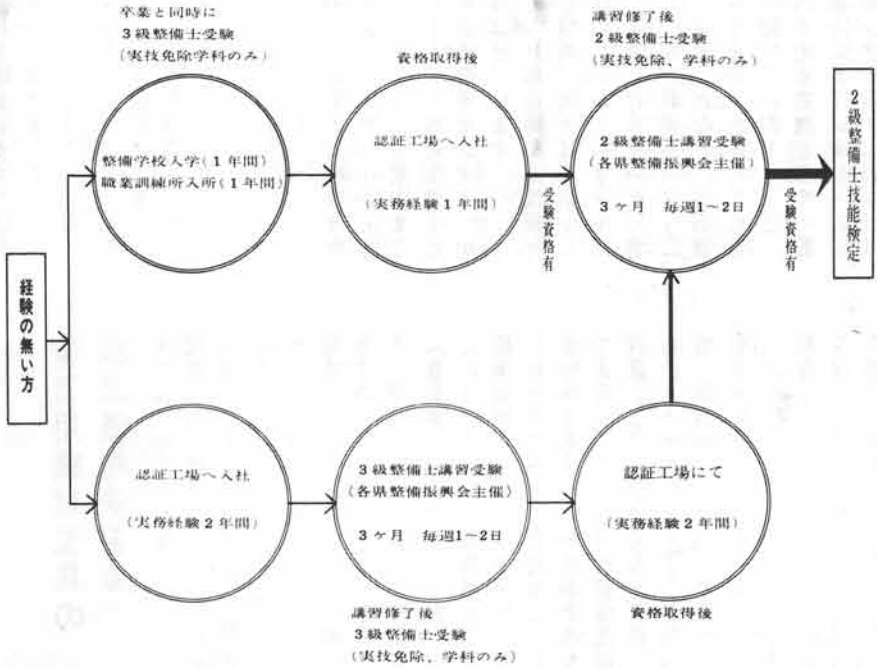
しかし、現在、定期的に試験が行なわれ、整備士講習も活発に行われているのは、つぎの5種類です。それぞれ、講習を修了したときは実技が免除になります。

3級整備士になってから、2年間の実務経験がないと、2級整備士の技能検定は受けられません。

自動車整備士の種類および講習

整備士の種類	講習の種類
2級ガソリン自動車整備士	2級ガソリン自動車講習
2級ジーゼル自動車整備士	2級ジーゼル自動車講習
3級ガソリン自動車整備士	3級ガソリン自動車講習
3級ジーゼル自動車整備士	3級ジーゼル自動車講習
3級シャシ自動車整備士	3級シャシ自動車講習

■整備士資格取得の方法

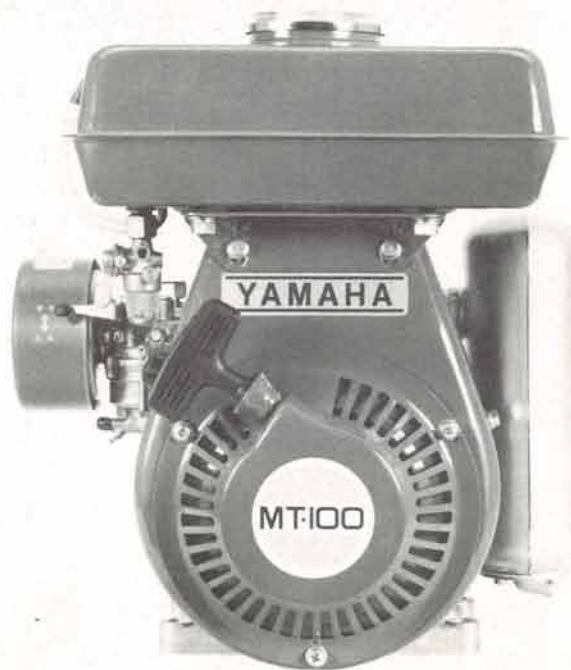


※詳細については各所の整備振興会、又は整備学校総合職業訓練所にお問合せ下さい。

広く役立つヤマハの技術

ヤマハ汎用エンジンMT100

軽くて強く、広い用途に活躍するタフなエンジン！ヤマハ汎用エンジンMT100は、オートバイでつちかわれたヤマハのエンジン技術を農業に漁業に、土木・建築業に、工業に、と広範囲に役立たせています。



ヤマハ汎用エンジンMT100 仕様

型 式	MT100
種 類	強制空冷 2 サイクルガソリン機関
形 式	直立単気筒
内径×行程	50×50
総排気量	98cc
圧 縮 比	6 : 1
最大出力	4.0PS/5000r.p.m.
常用出力	3.0PS/3800r.p.m.
最大トルク	0.68kg-m/3500r.p.m.
燃料消費率	380gr/PS-hr
回転方向	出力軸に向って左廻り
減 速 比	35/17=2.06
点火方式	フライホイールマグネット
潤滑方法	燃料混合25 : 1
タンク容量	2.8ℓ
ガバナ	遠心重錘式
重 量	17.5kg

◎性能向上のため変更することがあります。

◎この標準仕様エンジンとは別に直結タイプ（減速機なし）およびパーチャカルタイプがあります。

350^{cc}フルサイズはこの車だけ!

新発売

ヤマハスポーツ350RX



数多い350ccスポーツの中でも性能はピカ一。でも驚ろくことはありません。同じ350cc級と称していても、RXのエンジンはフルサイズ。しかも350cc級市販レーサーで世界一速いTR2を試験台につくられた。まったく新しい350スポーツだからです。1馬力あたり



の受持つ荷重は、わずか3.91Kg。レーサーのようにムダなく、ギリギリまでに合理化された新設計が、この実力を生み出したのです。いま、伸びている車は自動二輪車。ヤマハスポーツ350RXこそ、新しいスポーツ時代を画するロード・マシンです。